

## 財団法人

## 日本卓球協会事務局長

## 横田 幸子さん

WSFジャパンの活動の1つに「体協とJOCに女性役員を送る委員会」があります。今回は、日本卓球協会初の女性事務局長にお話を伺いました。

## ●横田幸子さん

1952年5月19日、栃木県宇都宮市生まれ。卓球は中学校から始め、72年、74年には全日本選手権女子シングルス優勝。75年、中央大学を卒業し、77年の世界選手権の後、第一線から退く。78年にスウェーデンに渡り、79年にスウェーデン人ジャーナリストと結婚。スウェーデンでは老人看護の仕事に励む傍ら、卓球のクラブチームでコーチ兼選手で活躍していた。93年9月より財団法人日本卓球協会事務局長を務める。

今年の八月、財団法人日本体育協会会長に高原須美子さんが就任しました。しかし、体協の加盟競技団体にはまだまだ女性役員が少ないのが現状です。そんな中、日本卓球協会に九月一日付けて初の女性事務局長が誕生しました。元日本チャンピオンの横田幸子さんで、日本アイスホッケー連盟の指方幸子さんに続き、日体協傘下の団体ではようやく二人目です。

## スウェーデンで十五年間

——一九七八年からスウェーデンで生活していたそうですが、なぜスウェーデンに渡られたのですか。

「現役時代に知り合ったスウェーデン人のスポーツ・ジャーナリストと結婚したためです。ゆくゆくは日本で暮らしたいとは思っていましたが、国際結婚に関する法律がスウェーデンのほうが緩かったものですから」

——スウェーデンと聞くと、男女平等の国というイメージがありますが。

「まさにその通りです。女性の自立心が非常に強く、仕事を持っていて女性の割合は、日本とは比べものになりません。そもそも結婚で仕事を辞めよう

とか、出産で仕事を辞めようとか、そういう発想がないんです。といつても、厳密には女性の労働賃金は男性よりも低いという問題があるんですけどね」

——では、横田さんのご家庭ではいかがですか。

「ただ家庭では、子供は性に関係なく、男女の区別なく育てます。生まれつきの素質や個性を生かして育てるというかたちですね」

「うちは子供はできなかったんですが、もちろん家事は半分ずつ分担してやっています。主人が我慢してやってくれているというのではなく、それがごく自然なんです。家計費も折半というのが基本ですが、(ペロツと舌を出して)うちの場合は都合のいいときだけ日本的で、それは主人もちです」

——日本では、共働き家庭はどうしても女性の負担が大きくなりますか。

——日本に帰国するにあたって、ご主人の反応はいかがでしたか。

「スウェーデンではそんなことはありません。国の出資で託児所が整備されていますし、生後一年間は育児休暇を取れるんです。夫婦で半年ずつ取っているケースが多いようですね。現に、いまのスウェーデンの首相は男性ですが(カール・ビルト首相)、彼も取りましたよ」

「私自身は決断するのが難しく、悩みました。でも最後は主人が決めてくれたんです」

——「I」ということは、ワーキング・ウーマンだけでなく、女子スポーツ選手にとつても暮らしやすい国といえますね。

——「主人はまだスウェーデンにいて、私は単身赴任なんです。何か仕事を前から日本についての知識を持っていましたから、特に戸惑いはないようです。日本ならではの「温かさ」のよう

「そうですね。出産後、復帰して、赤ちゃんを連れて試合に出ている選手もいます。まさに「女性の天国」といえると思います」

「生活習慣がかなり違って、ご主人は戸惑っていらっしやいませんか。」

「彼が「親戚の家」というか、結婚する前から日本についての知識を持っていましたから、特に戸惑いはないようです。日本ならではの「温かさ」のよう

なものを気に入っているようです」

## 男女オープンの試合を

——さて、事務局長としての仕事の内容を教えてください。

「事務処理の他、大会に向けてのイベントの企画・準備、会議の準備等、責任ある仕事、雑用、いろいろあります」

——卓球協会のスタッフは何人いらつしやるんですか。

「男性が七人、女性が私も入れて三人全部で十人です」

——現在、四十一歳ということですが、非常にお若い事務局長ですが、若いことでやりにくいことはありませんか。

「いまのスタッフで、私より年上は四人います。また年長の理事等の役員の方たちもたくさんいますが、現役時代からの知り合いや、スウェーデンにいたころ、卓球協会の国際委員（ヨーロッパ担当）をしていたので、ほとんどの方が顔なじみなんです。だから、特にやりにくいといったことはありませんね」

——そこは「プレーヤー出身」であることのメリットなのかもしれませんね。「たしかにそうですね。ちなみに現在のスタッフのうちで、トッププレーヤーだった人は私を含め四人います」

——女性であることのハンデイ等を感じられたことは。

「まだありません。それに特に女性だから、という意識は持っていません」

ただいつか、会長の高原さんや、アイソホッケーの指方さんとゆつくりお話をしてみたいとは思っています」

——横田さんご自身は、いまは卓球は「引退後は趣味でやっています。卓球は親子が、また男女が一緒に楽しむことのできる数少ないスポーツですから、続けていきたいと思っています」

——それでは事務局長としてのこれらの抱負をお聞かせください。

「日本ではスポーツといえば学校体育から入るのがほとんどです。でも理想は、地域等のクラブに入って家族と一緒に親しんでいくというかたちだと思います。いろいろな交流・出会いができますしね。それとスウェーデンではランキングに応じて、女子が男子の試合に出場したり、子供が一般社会人の試合に出場することができるようなんです。そういうオープン化をまず卓球から実現させてゆきたいですね」

将来的には、レディースのアジア大会や、男女一緒にプレーできるベテランの大会を開催したいと思っています」



「日々、国際化していく協会の仕事を任せるならこの人」と白羽の矢が立った横田さんは、「帰国してからまだ日が浅く、忙しさに追われて、正直、周りの状況をみる余裕がない」とのことでした。

しかし卓球のプレー同様、粘り強く活躍していつてくださることでしょう。（九月三十日取材・聞き手 山本尚子）

速さに見えるか。  
1/100秒と対峙せよ。



# SEIKO

スピードマスター SBBT001 100,000円/価格はメーカー希望小売価格(税抜き)です。